

# 民主島根

2022年  
**10.9**  
第1413号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 旧統一協会問題 徹底追及へ 「国葬」弔意強制は憲法違反

### 松江 尾村県議らが街頭から訴え



宣伝する(右から)岩田剛地区委員長、尾村県議ら (松江市)

日本共産党の尾村利成県議は9月26日、松江市内で開会中の9月定例県議会の議会報告と「国葬」中止を求める宣伝を行いました。

尾村氏は、安倍元首相の「国葬」実施は憲法違反だと強調。「すべての国民は法の下の平等と定められた憲法14条と、思想及び良心の自由を定めた憲法19条に違反する。なぜ安倍元首相のみを特別扱いし、国葬を行うのか。まったく道理がない」と批判しました。

そして、「憲法違反で法的根拠もなく、莫大な税金をつぎこむことは、民主主義を破壊する暴挙にほかならない」と訴えました。

また、旧統一協会と自民党の癒着にふれ、自



### 尾村県議の一般質問 島根2号機の再稼働同意撤回を

党と岸田内閣は、党としても内閣としても、責任を持って癒着の実態を調査・究明し、責任を明確に果たすべきだと指摘。

「安倍元首相や細田衆院議長など、国会議員や閣僚が反社会的カルト集団

## 9月県議会の論戦から

日本共産党の尾村利成県議は9月20日、一般質問に立ち、県知事や県執行部、教育長をたどしました。(2面に続く)

尾村県議は「新型コロナウイルス第7波でマンパワー不足が明白になった」と強調し、島根原発2号機再稼働など絶対により得ないと訴えました。

### 統一協会系行事後援 徹底調査を

尾村県議は「旧統一協会は、国民の平穏な生活を阻害する反社会的集団だ」と指摘し、県は毅然と対応すべきであり、旧統一協会や関連団体と一切の関係を持たないよう求めました。丸山知事は、旧統一協会は霊感商法や献金強要による被害が指摘されているとし「反社会的な行為等が指摘されている団体と関係を持ち、信用を高めてしまうと、被害を拡大させる恐れがある。関係を持たない方針で臨んでいく」と応じました。

党県議団が8月1日に旧統一協会や関連団体の

医療や福祉現場から「今の配置基準はギリギリ。いざという時に命を守れない」「医療や福祉現場には余力が必要」などの現場の声を紹介し、これ以上の病床削減は中止し、拡充に切り替えるべきと強調しました。

尾村氏は「県は『重症になる可能性がある方は医療体制がひっ迫している都道府県への移動を慎重に』との注意喚起を発した。即ち、感染拡大時、原発事故が起きたら、避難先の医療機関で十分な医療が受けられないことを県が認めたことだ」と指摘しました。

丸山達也知事は「医療提供体制の整備や医療従事者の確保に努めていく

必要がある」と答弁しつつも、避難計画について「感染症への対応をはじめ、複合災害対応など、必要とされる事項について実行できる内容を盛り込んでおり、実効性はあり」との認識を示しました。

これに対し、尾村氏は再質問で「実効性があるとの認識は、県が新たな安全神話をふりまくことになる。医療現場の実態と乖離している」と反論。「病気で苦しんでいる人がなぜ避難しなければならないのか。医療機関や入院患者の生の声を真摯に聞くべきだ」と迫り、実効ある避難計画は未完成であり、再稼働同意の撤回を求めました。

2017年度と21年度の被害だったとして「市の町村の窓口を支援するため、20年から指定消費生活相談員を配置し巡回訪問やヘルプデスクの設置などにより県、市町村一体となった相談体制の強化を図っている」と答えた。

尾村氏は再質問で、国際勝共連合の幹部を講師に迎えた「島根人格教育シンポジウム2019」(島根人格教育協議会主催)を県教委と松江市教委が後援していた実態を告発。県教委、松江市教委の社会的責任、道義的責任は絶対に免れず、徹底調査を要求しました。

### 鼓動

安倍元首相の「国葬」が終わった。7月下旬に閣議決定されて以来、「安倍晋三氏が何を成し遂げてきたのか」を振り返る報道を多く目にした。憲政史上最長の在任であることが「国葬」とする理由の筆頭に挙げられていたが、この間の安倍政治、そしてそれを忠実に継承し今も引き継ぐ菅・岸田両政権の姿勢からは、残念ながら民意を置き去りにした傲慢さしか見えてこない▼戦争法の強行採決、沖縄辺野古新基地建設、モリ・カケ・桜の国政私物化、学術会議任命拒否、そして国会も開かず閣議決定した、法的根拠もないままの今回の「国葬」強行。全てが時の政権による憲法違反、民意無視の暴挙であり、権力の中枢にあるものの傲慢さの表れと言えよう▼では、「傲慢さ」とは何か。それは、自らを省みる姿勢をなくし、「聞く耳」をもてなくなった謙虚さ欠如の状態ではないか。岸田首相の特技は「聞く耳」らしいが、実に疑わしい▼とはいえ、自身を振り返っても、自分の傲慢さに自覚的であることは本心に難しい。そうであるが故に心掛けていることがある。書店を訪れ、あらゆるジャンルの膨大な書籍を見て回ることだ。目にする書籍の数が増えるほど、いかに自分がこの途方もない「知の大海原」の片隅にしか漂えていないかを自覚する。そして内なる傲慢さの芽に気づく▼時は秋。読書週間も始まる。今年「この一冊に、ありがとう」が標語だ。自らを省み、謙虚さを取り戻させてくれるかけがえのない「ありがとう」の一冊に出会いたい。それが、謙虚さというベクトルを手に入れる方法の一つである。(江)